



お宝紹介!

第156回
熊本大学附属図書館

熊本大学附属図書館 貴重資料のご紹介

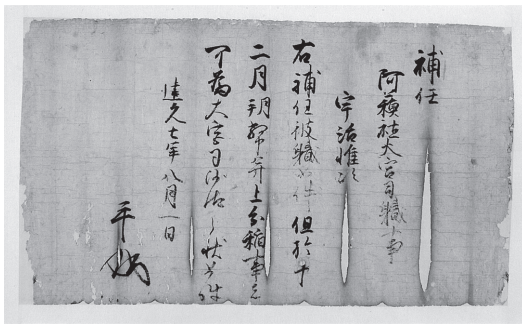
熊本大学附属図書館

1. はじめに

熊本大学附属図書館は、数多くの古文書を貴重資料として所蔵しています。今回は主なものをいくつかご紹介したいと思います。

2. 阿蘇家文書

「阿蘇家文書」は、肥後一の宮阿蘇神社の宮司(大宮司)阿蘇家に伝来した古文書で34巻の卷子本(304通の原文書)と36冊の転写本(写し)からなり、昭和62(1987)年には国の重要文化財に指定されました。



▲阿蘇文書 第1巻-7 北条時政阿蘇大宮司職補任状
建久7(1196)年6月19日, 大宮司職に補任したものの

上記写真をご覧になると、複数の焼け焦げた穴が確認できると思います。これは天保7(1836)年火災の痕跡で当時焼失したものも少なくないと言われていますが、幸いにも焼失以前に転写本が作成されていたため、欠損部分は転写本で補うことができるとされています。そのため重要文化財には原文書と写しの両方が指定されています。

本館では重要文化財指定を機に卷子本の修復作業を開始し、平成17(2005)年に全巻修復が完了、平成18(2006)年には修復完成を記念する展覧会

「阿蘇家文書修復完成記念 阿蘇の文化遺産」を熊本県立美術館と共同で開催しています。

「阿蘇家文書」の内容は、上記展覧会図録の解説(執筆:工藤敬一名誉教授)によると「時代的には平安末から幕末期にわたるものの、大部分が鎌倉~戦国期の中世文書である。(中略)南北朝期の文書は、大宮司阿蘇惟時が南朝方からも武家方からもすこぶる重視されたことや、南朝方として活躍した恵良(阿蘇)惟澄が、幾通もの長大な軍忠状を遺したこと、一族が双方に分かれつつも、のちに統合されたことなどから、諸勢力の発給文書が豊富に伝来し、当該期九州のもっとも重要な政治史の史料群となっている。」とあります。

「阿蘇家文書」は、東京帝國大學文學部史料編纂所による大日本古文書・家わけ第十三の『阿蘇文書』(全3冊)のうち、巻1・2に収録されていますので、内容はこちらで読むことが可能です。また、卷子本全34巻(304通)については、すべての画像データを本館の図書館HPにて公開していますのでそちらをご覧ください。

<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/asoke/>

3. 細川家北岡文庫(永青文庫)

「細川家北岡文庫」とは旧藩主細川家に伝わった史料で、公益財団法人永青文庫から寄託を受け、昭和39(1964)年から架蔵しています。

南北朝時代の細川頼之代から近世細川氏の初代とされる藤孝の丹後統治以後、豊前・豊後時代を経て、寛永9(1632)年の肥後入国以来、明治4(1871)年の廃藩置県に至るまでの史料です。藩政史料から国文学、有職故実、絵図・指図類まで、その質量において全国有数のものとされています。うち、中世文書266通は平成25(2013)年に国の重

要文化財に指定されました。

平成27(2015)年12月, 本学の文学部附属永青文庫研究センターによって総目録が完成, その数は約58,000点と発表されました。同センターからは, 永青文庫叢書「細川家文書」5冊(中世編, 近世初期編, 絵図・地図・指図編1・2, 有職故実編)が刊行されていて, 図版も多数掲載されていますので, ご覧いただいた方も多いのではないかと思います。

本館では, 昭和44(1969)年に刊行された目録『永青文庫 細川家旧記・古文書分類目録 正編』をデータ化して図書館HPで公開しているほか, 平成22(2010)年からは近年の研究成果である『十九世紀熊本藩住民評価・褒賞記録「町在」解析目録検索システム』も図書館HPにて公開しています。

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/eisei/index.html>

<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

4. 松井文庫

「松井文庫」は, 熊本藩の筆頭家老で八代城主であった松井家に伝来した古文書の一部で, 豊後統治時代から明治まで37,221点の史料です。藩主である細川家に伝わる「細川家北岡文庫」と相俟って肥後藩政史研究上貴重なものとされ, 大きく次の四つに分けられます。

- (1) 冊子体文書
- (2) 一紙文書
- (3) 伝習堂本
- (4) 貴重書

このうち(1)冊子体文書の全てと(2)一紙文書の一部は, 図書館HPにて目録を公開しています。

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/local/matsui/index.html>

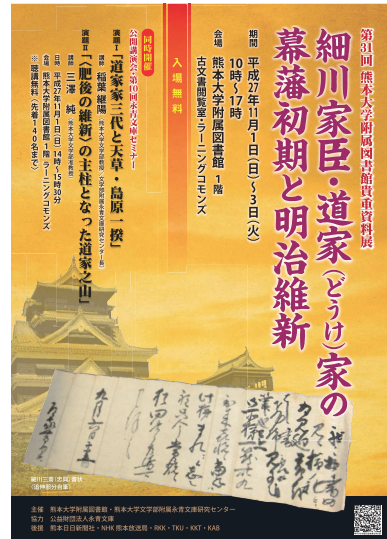
5. 貴重資料展

本館ではこのように数多くの古文書を大切に保管し研究・教育に供しています。そのため, 古文書専用の閲覧室を3部屋用意し, 県内外の研究者に予約制でご利用いただいておりますが, 通常は非公開です。

一般向けの公開としては, 毎年秋に開催する貴重資料展があります。各回テーマを決めて展示し, 第31回(2015年)は『細川家臣・道家(どうけ)家の幕藩初期と明治維新』と題して開催しました。「道家家文書」は昨夏に道家氏から寄贈をうけ,

資料展では藩主側の細川家北岡文庫(公文書)と道家家文書(私文書)を組み合わせた興味深い展示となりました。

貴重資料展ではテーマに沿った公開講演会・永青文庫セミナーを同時開催しますので, 毎年楽しみにされている一般市民の方もいらっしゃいます。



▲第31回熊本大学附属図書館貴重資料展リーフレット

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/events/exhibitions>

他にも各地の美術館や博物館などで開催される展覧会へ史料を貸出していますので, 各地でご覧になれる機会もあるかと思います。

6. おわりに

本館のように古文書が形成された現地において原形態のままに管理し活用している機関は全国にも少ないと聞いております。

本館では先人達が守り伝えてきた古文書を次の世代へと渡す役割は勿論, 研究・教育に有用な情報を発信することで, 古文書活用への支援を推進していく所存です。

[NDC10:090 BSH:1.稀書 2.熊本大学附属図書館]